

(9) 中村西中学校

学 校 長 山本 博一
校内研究代表者 森原 朋生

1. 研究主題 「生徒が本気で取り組み、力をつける授業づくり」
～対話や議論を生む課題設定の研究を通して～

2. 主題設定の理由

平成30年度1月実施の高知県学力定着状況調査においては、1・2学年のほとんどの教科で全国値を超えることができていた。これは全教員が校内研究を通して授業改善や授業力向上を目指して取り組んできた成果だと考えている。一方、本調査の分析を通して課題として見えてきたのは、「思考・表現」を問う問題や「記述式問題」における弱さである。特に、昨年度は「対話的な学び」に重点を置き、授業の中でペアや小グループで話し合う活動を位置付けてきたが、真の「対話」になっていたか、生徒が主体的に課題解決に取り組むための「対話」が仕組めていたのか、ということが課題であると全教員で確認した。そこで、今年度は、生徒が本気で考えたいくなる課題を設定し、必然性のある対話や議論を通して学びを深めていく授業づくりを目指して、本研究主題を設定することとした。

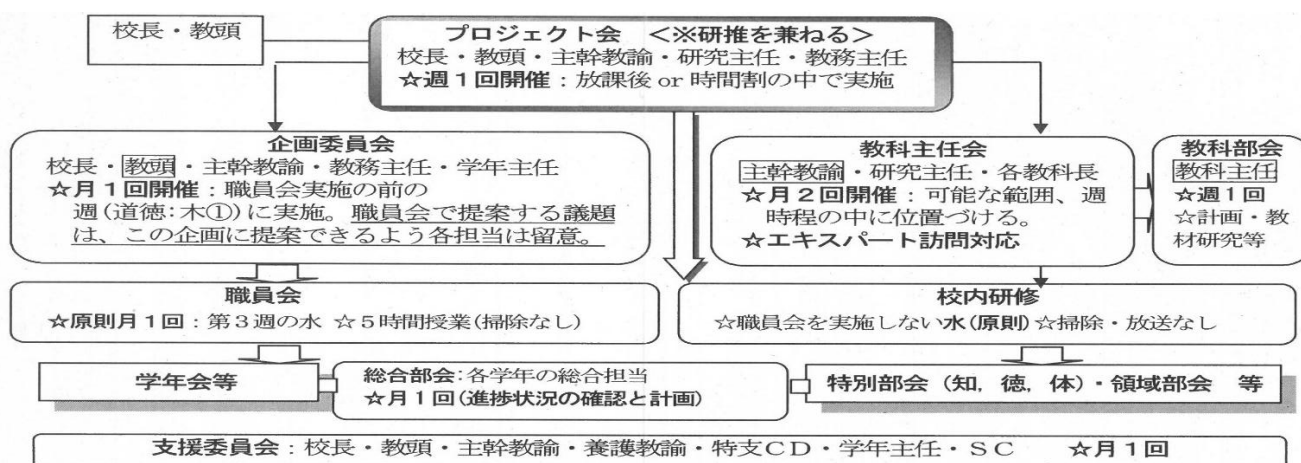
〔研究仮説〕

仮説1：生徒が考えたいと思う課題（必然性のある課題や他者と協働することによって解決できる課題）を工夫して設定すれば、授業に対話や議論が生まれ、生徒の思考力・判断力・表現力が高まるだろう。

仮説2：対話や議論を通して広がったり深まったりした自分の考えを振り返りとして表出させることにより、一人一人の思考の高まりや深まりを自覚させることができ、深い学びにつながるだろう。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織



(2) 研究内容

- I 授業研究を中心とした授業改善
- ・全校公開授業研究(年6回)
 - ・授業スタンダードに基づいた授業者の心構え自己チェック(月1回)
 - ・授業評価アンケート(学期に1回)
- II 効果的な縦持ちの教科経営
- ・教科主任会(月2回)

- ・教科会（週1回以上）
- ・授業を見合う取り組み（月1回）
- ・エキスパート訪問（年3回）

Ⅲ 県外先進校視察研修

- ・鳥取市立鹿野学園（12月）

※Ⅰ～Ⅲの研究内容は単独で行っているものではなく、それぞれに相関関係がある。

4. 研究実践

（1）授業研究を中心とした授業改善

①「授業スタンダード」

本校では「中村西中学校の授業スタンダード」を作成し、授業の心構えや授業の流れ（学習課題をつかむ→学習課題について深める→まとめ・振り返り）について年度途中にも確認している。

②全校研（年6回）

年間6回行われる全校公開授業研究では、事前研修として指導主事を迎えた指導案検討や、全教員が参加した模擬授業を行った。全校研では研究主題に基づき、授業を見る視点を3点（課題設定、対話や議論、振り返り）に絞り、公開授業後にグループで研究協議を行った。また、指導主事には当日、公開授業や授業後の研究協議の様子を見ていただき、指導・助言をいただいた。

研究協議で出てきた課題については、全体の課題として全教員で共有し日々の授業改善につなげてきた。第1回の全校研では「聞く／聴くことを大切にしよう」「振り返りを毎時間入れよう」、第2回では「相手意識を持った表出を促そう」、第3回では「授業の流れを提示しよう」、第4回では「単元ゴールや本時のまとめから逆算して授業をデザインしよう」、第5回では「これまでに確認したことを徹底しよう」とし、一つ一つの課題を全教員が意識することによって授業の質を高めてきた。

③「授業者の心構え自己チェック」（毎月実施）

この自己チェックは①「授業スタンダード」や研究主題と対応したものになっている。毎月16項目について自己チェックを行い、教科会で課題についてどのように対策をすべきか確認している。自己チェックをすることによって自分の授業の課題を見直すことができ、また教科会で確認することにより縦持ちの授業の質がそろってきたと思われる。

（2）効果的な縦持ちの教科経営

①教科主任会（月2回）

主幹教諭が中心となって計画し、今年度から5教科以外（音美・保体）も参加し全教科体制で実施している。教科主任会では3本の柱（授業を見合う取り組み、対話や議論、振り返り）について協議を行い、研究主題にある「本気で取り組む」とはどういうことか、対話や議論の目指す姿とは、振り返りの内容は・・・など教科横断的に協議を行った。教科主任会で話し合った内容については教科会で周知している。

②授業を見合う取り組み

他教科の授業実践を自分の授業に生かしたり、ベテラン教員と若手教員のOJTをねらいとして、月に1回以上、自分の担当教科以外の授業を参観している。参観者は授業参観カードに記入し、主幹教諭が統括し授業者に還元している。この参観カードについては教科会で協議するようにしている。

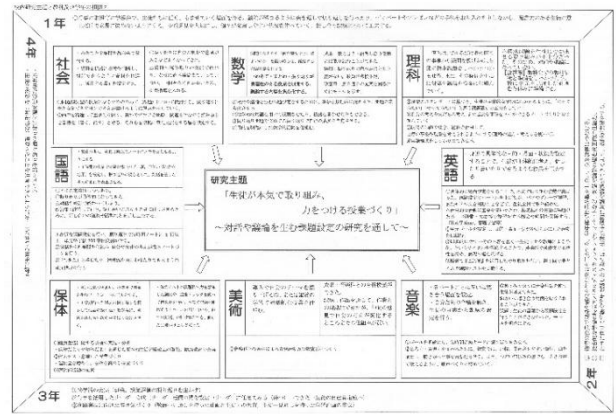
③振り返り

全教科で単元ごとに生徒が200字の振り返りを行っている。そして、振り返りの中から数名選び校内に掲示している。その際、教師のコメントを添えるようにしている。どの教科でも振り返りを書いているので、生徒は書くことに抵抗が少なくなり、内容もねらいに沿った振り返りへと質の向上も見られる。



④研究主題との相関図

研究を進めていく中で、研究主題を中心として、各教科、各学年がどのような取り組みをしているのかを互いに把握することで、研究主題に迫ることができるのではないかと考えた。そこで、主幹教諭が中心となり、「校内研究主題と教科、学年の相関図」を作成した。(右図)相関図を作成し、学期ごとに見直しを図ることで、教科間、学年間のつながりを意識することができ、縦・横のライン機能を生かすことにつながった。



⑤エキスパート訪問 (年3回)

「組織力向上のための実践研究事業」として、エキスパートの松田先生にお越しいただき、授業改善や教科主任会の在り方について指導・助言をいただいた。エキスパート訪問の内容は教科会で周知した。

(3) 県外先進校視察研修

12月には教頭と教諭2名が、先進校視察研修で鳥取市立鹿野学園を訪れた。鹿野学園は5・4制の義務教育学校で、新設教科として「表鷲科(あらわしか)」を設置し、学びを支える力の育成として表現力に焦点を置いた授業を展開していた。また、道徳教育を核とした学校教育を行っている。近日中に研修報告を行い、来年度の取り組みに生かす予定である。

5. 今年度の成果と課題

授業の心構え自己チェックを見てみると、5月は達成率が70.2%だったが、11月は88.8%と目標値である90%に近づいている。一方で「解決に向けて情報を収集したり、生徒が活発に交流をして、思考が深まるように対話的な学習を取り入れている」については50%と落ち込んでいる。これは思考の深まりを引き出す対話的な学習という大きな課題について、真摯に向き合っている結果とも言える。

また、学校評価アンケートでは、授業に関わる項目について昨年度より改善している。しかし、「授業内容がよく分かるか」については肯定的評価が89.1%であり、授業内容が理解できていないと感じている生徒が1割いるということが明らかになった。

- 【成果】(教師) ○授業の見方がそろってきた
○全員で決めたことが徹底されてきた
○全教員が研究に関わる体制ができてきた
- (生徒) ○授業を受ける姿勢が向上した(自信や有用感が高まってきた)
○振り返りの量や質が向上した⇒書く力が向上し、無答率が低い
- 【課題】 ▼「対話や議論」の授業実践が不十分である
▼生徒と教師の目指す授業イメージの共有が不十分である
▼基礎学力の定着が不十分である

【来年度に向けて】

- ・対話や議論を生む課題設定について、さらに研究を進める
- ・授業イメージの共有(教師間、教科間、生徒と教師)
- ・授業スタンダードの見直し
- ・縦・横のライン機能を生かしたカリキュラム・マネジメントの強化

本校の強みとして、個別の課題を全体で共有し全教員で対応する、一つの成果を全体へも波及させ全教員で取り組む雰囲気があることが挙げられる。この1年間試行錯誤を繰り返しながら、新たな取り組みつなげたり、再度原点に戻ったりと研究を深めてきた。まだまだ課題は多いが、来年度も本校の強みを生かし研究を進めていきたい。